



## 救急科 (第34期)

苦しい 疲れた もうやめた では 人の命は 救えない

すべては 傷病者その家族のために



令和7年1月7日(火)から2月28日(金)の約2か月間、121人の学生が救急科(第34期)に入校となりました。救急隊員として活動する要件を満たすため、傷病者に関わる上で重要となる「解剖・生理」を中心とした講義から始まり、学生は聞き慣れない用語や知識に戸惑い、不安が増す日々となったはずですが、新しい挑戦、学びには避けることのできない感情であると思います。しかしながら、カリキュラムを進めていくうちに少しずつではありますが、ここで得た知識や技術が自信へと変化していったはずですが、今後の消防人生に生かしてください。本教育に御協力いただいた多くの講師の方々には感謝申し上げます。



# 規律の厳守 技術の錬磨 体力気力の練成

担当として入校前から学生に伝えていたことに、規律の厳守があります。救急科の学生は年齢も様々、初任科以来の入校となる学生や他の専科教育を経ての入校となる学生もいたかと思えます。しかしながら、この入校をきっかけに初心を思い出す、ここに来ると背筋が伸びる、消防学校はそのような場所でありたいと自分自身は考えます。初任科教育も専科教育も変わりはありません。そのような所作の徹底が、やがては地域住民からの信頼、現場活動へ繋がると考えます。随時指導を繰り返しましたが、交代要領、点呼、入室要領どれを見ても評価に値するものでした。121人の学生のとりまとめ役に尽力してくださった総代、副総代には感謝しております。



## (担当から)

救急現場は待ったなしです。度重なる出動に、一件の出動の重みに慣れてしまうことも懸念されます。

しかしながら、必ずその先には我々を待つ傷病者、その家族がいます。軽視することなく、出動に備え継続的に訓練、学習に励んでください。

訓練、学習に終わりはありません。ここで得た仲間と共に歩みを止めることなく、進んでください。

立場や年齢、服の色は違えど、我々は同じ志です。

教務課主査 山下 大輔 (駿東伊豆消防本部から派遣)



# 人命救助の最前線

## 消防職員専科教育 予防査察・危険物科〈第9期〉

令和7年2月25日（火）から3月13日（木）までの13日間、専科教育予防査察・危険物科を開催し、県内15消防本部から44人が参加しました。この課程の教育到達目標は、「査察・危険物行政の現状と課題を理解し、的確な査察要領の習得、違反対象物に対する是正指導ができること。また、危険物業務に関する専門的な知識及び技術を習得すること」です。

そのために、県内外の予防のスペシャリストを講師に招き、幅広く専門的な教育を実施しました。



グループワーク(消防大学校助教)



消火設備説明(能美防災)



避難設備実習(富士消防機商会)



危険物実験(静岡大学矢永准教授)



事例研究



通常点検



査察実習(静岡市消防局)



物品除去命令実習



合同聴講(泉州南広域消防本部)

(担当教官から)

本科を担当するにあたり、「予防を人材育成に繋げる」ことを意識しました。組織の維持のためには人材育成が必要不可欠です。先輩から教わったことの90%しか後輩に教えられない、それが3回続けば $0.9 \times 0.9 \times 0.9 = 0.729$ 、73%に減ってしまいます。逆に、教わったことに10%の学びを加えられれば、3回で $1.1 \times 1.1 \times 1.1 = 1.331$ 、33%向上します。修了生には、予防に限らず、今まで以上に後輩への指導を意識して業務についていただきたいと願っています。

もちろん自分の不得意分野を教えなければならない時もあるかと思いますが。そういう時こそ、横の繋がりを大切にフォローしあっていただきたいです。

最後になりますが、本科の開催にご協力をいただきました皆様に深く感謝申し上げます。

教務課主査 鈴木 敏弘 (富士市消防本部から派遣)

# 消防大学校レポート

## 予防課（第117期）



### 研修の目的

「予防業務に関する高度の知識及び技術を専門的に修得するとともに、教育指導者等としての資質を向上させる。」

令和7年1月8日（水）から2月28日（金）まで、消防大学校予防科（第117期）に入校しました。研修を通して、人に説明する難しさと常に前向きな気持ちで挑戦し続けることの重要性を再認識しました。講義では、予防実務や違反処理実習など人に説明する場面が多く、どう説明すれば相手が納得し、行動に移してくれるのかを試行錯誤しながら受講しました。講義を通して自分に足りない部分の発見と「気付き」を得ることができました。その気付きも考え方や捉え方次第で習得度合いが変わると思います。消防は市民のため、与えられた権限を積極的に行使しなければなりません。常に前向きな気持ちと毅然とした姿勢を意識して今後も学校教育に励んで参ります。

最後に、研修で出会った同期とのご縁に感謝し、大切にして今後の消防人生に活かしていきます。

教務課主査 水野 清人（磐田市消防本部から派遣）

## 離任教官表彰状授与式

## 厳しい教育訓練、ありがとうございました

令和7年3月24日（月）この3月に所属消防本部（局）へ帰任する3名の教官の「離任教官表彰状授与式」を行いました。学校長から、県内の消防職員や消防団員等の指導育成のための尽力に対し、表彰状が授与されました。また、県職員の高橋教官が定期異動で当校を離れることとなりました。

離任教官の皆様、本当にありがとうございました。県内の消防力向上のために、常に全力で、そして真摯に取り組んでいただきましたことに感謝いたします。

新天地において、消防学校で培った技術や経験、大きな人間力を十二分に発揮し、所属の消防職員のお手本として頑張っていたいただきたいと思います。皆様の御健勝をお祈り申し上げます。



左から

仲村 直樹 教官  
（下田消防本部から派遣）  
高橋 謙一 教官（県職員）  
三沢 泰 校長（県職員）  
飯塚 誠 教官  
（静岡市消防局から派遣）  
永田 裕司 教官  
（菊川市消防本部から派遣）

お疲れ様でした！



### 離任教官からのコメント

私の座右の銘は「我以外皆我師也」です。憧れ目指していた教官となり3年間、多くの学生や講師、そして教官方に出会い、たくさんの指導と教育を行う中で、私自身が時に気づき学び、時に失敗し反省、そして考え行動することで、人間として消防人として大きく成長させて頂くことができました。派遣期間中、多種多様な人と接し出会えたことは私の人生において大きな財産となりました。大変貴重な経験をさせて頂き、全ての皆様に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

教務課主査 飯塚 誠（静岡市消防局から派遣）

着任して早3年、ここでの日々は、私の人生でかけがえのない時間となりました。離任を間近に迎えて抱くのは、感謝しかありません。激励の言葉をかけてくれた所属の方々、教育訓練でお世話になった講師、支援隊の方々、共に学校運営に尽力した教官、学校職員の方々、そして、共に成長する機会を与えてくれた学生の皆さん。すべての方に深く感謝申し上げます。学んだ知識と技術や日々の感じた出来事は、私にとって大変貴重なものとなりました。この経験を糧に協同の精神を大切にして、消防人生を邁進していきます。

教務課主査 仲村 直樹（下田消防本部から派遣）

消防学校に赴任し瞬く間に3年の月日が流れました。素晴らしい教官たちと共に過ごした時間や講師の方々、入校した学生たちとの出会いは消防人として大きく成長させていただきました。私の人生において最も充実した時間、貴重な経験を与えてくれた、すべての皆様に感謝申し上げます。学んだ知識と技術、そしてたくさんの出会いを大切に『初志貫徹』の志を忘れずに、この経験を人生の糧に今後も職務に邁進していきたいと思っております。本当にありがとうございました。

教務課主査 永田 裕司（菊川市消防本部から派遣）

3年前の人事異動内示は、今でも鮮明に覚えています。行政職の異動は、ほぼ転職することと同義だと捉えていましたが、消防学校！？しかも、教官！？正に「青天の霹靂」の四字熟語がふさわしい衝撃と動揺が全身に走りました。消防学校の教官像に対する不安が自信に変わるきっかけとなった先輩教官の教えと訓練の数々。そして、県内消防本部（局）の看板を背負った、時に優しく時に厳しい教官と共に流した汗と涙は、これからの人生における糧になると確信しています。3年間、大変お世話になりました。ありがとうございました。

教務課主任 高橋 謙一(県職員)

## 三沢校長から一言

またしても高齢者運転の車による痛ましい事故が起きてしまいました。昨日（3月24日）、浜松市で軽トラが小学生4人をはね、小2の妹が亡くなり、小4の姉は重体となっています。お姉ちゃんは何んとか助かって、妹の分まで生きてほしい。がんばれっ！お姉ちゃん！

運転していたのは78歳の男性、田舎では当たり前前に運転する年齢なのでしょう。急発進防止装置をつけたところで普通に運転しているときのミスがカバーできるわけではありません。「上級国民」飯塚元受刑者あたりからたびたび問題になっていますが、解決策は運転させないこと以外ないです。悲劇を繰り返してほしくない、なんとかありませんかね・・・

3月も末となり、人事異動の季節になりました。今年度、県内消防本部の消防長クラスで定年の区切りを迎えられるのは、16名のうち半数の8名と伺っております。新型コロナウイルスによる救急搬送の急増、熱海の土砂災害、台風による大規模な浸水・断水、そして能登半島の震災への職員派遣など、幹部として様々な苦勞を乗り越え、このたびご卒業されます。今後進む道はさまざまであろうと思いますが、健康には十分留意され、ますますのご活躍をお祈りします。引き続き消防行政へのご指導をよろしくお祈りします。

消防学校から市町へ帰任する教官は前号でお知らせしましたが、県職員の高橋教官（主任）は県立総合病院に異動です。消防職員に負けない大きな声で礼式を中心にがんばってくれました。家からも近くなる次の職場で、引き続き元気でがんばってください。

さて、私は役職定年で参与として静岡土木事務所に駐在します。各消防長はじめ、消防関係の皆さんには大変お世話になり、ありがとうございました。また、宮田副校長以下消防学校の皆さん、楽しく仕事ができました。ありがとうございました。

そして、「消防学校ニュース」読者の皆さん、2年間お付き合いをいただき、ありがとうございました。多くの方々から「読んでるよ！」と声かけがあり、とてもうれしかったです。またどこかでお会いできるのを楽しみにしています。

ありがとうございました。



編集・発行/ 静岡県消防学校 〒424-0211 静岡市清水区谷津町 1-577-1  
☎ 054-369-1190 FAX 054-369-1197 E-mail fd-school-somu@pref.shizuoka.lg.jp

★「消防学校ニュース」は静岡県ホームページの消防学校の案内・紹介のところに掲載しています。過去の分を含め、どうぞ御覧ください。

静岡県消防学校

検索

